

香川大学 広報誌

# かかアド

KAGAWA UNIVERSITY AD Vol.030 2019 SUMMER

30

THE 30th. ISSUE

かかアド

KAGAWA UNIVERSITY AD Vol.030 2019 SUMMER

香川大学広報室 〒760-8521 香川県高松市幸町1-1 087-832-1027 <https://www.kagawa-u.ac.jp/>



自分を信じて、跳ぶ。

# WELCOME TO KAGAWA-UNIV.

香川大学

01

山地 里奈さん  
(経済学部1年)  
田中 伶奈さん  
(教育学部1年)

## アスリートとして 今を生き 学ぶことで 未来を見つめる

「りな・れな」の愛称で呼ばれる二人は、東京オリンピックに向けて日本棒高跳び界を牽引するアスリート。この春そろって香川大学に入学しました。中学入学と同時に棒高跳びを始め、すぐに将来を嘱望される存在になったのは山地里奈さん。一方、優秀な走り幅跳びの選手だった田中伶奈さんは、中学2年で棒高跳びに転向。最初の競技会から目覚ましい記録を残して周囲を驚かせます。大会で度々顔を合わせ話もするようになった二人は、共に陸上の強豪・観音寺第一高等学校に進学。棒高跳びのオリンピック選手も輩出した詫間茂コーチのもと、いっしょに練習に励みました。

山地さんは高校2年で、インターハイ、国体、U18日本選手権と、高校三冠を達成。田中さんは、高校3年のインターハイで優勝し、20歳未満の日本記録を更新。日本代表として初出場したアジア大会では、4m00cmを飛んで、5位入賞を果たしています。

「ライバル」から「同級生」となり、次第に互いを高め合う「親友」という関係も築いた二人。時に相手に対する複雑な感情を抱えながらも、「相手がいなかったら、これほど記録は伸びなかった」と認め合う関係です。

アスリート・スチューデントとして熱く今を生きる二人が、どんな未来を描き、香川大学のキャンパスでどんな学びを得ようとしているか。日本陸上競技選手権大会を控えた二人に、算学長が聞きました。



# JUMP!

## 自分を 信じて、 跳ぶ。

今回の「かがアド」は、挑戦する香大生を取り上げます。研究に、スポーツに、地域の活動に、一人ひとりが取り組む内容や目標は違うけど等身大の自分を超えて、さらに上をめざす気持ちは同じ。いまの場所を飛び出して、新しい世界に挑む勇気と覚悟。

自分で動き、いまと未来をみずから変えていく学生の姿は70年前の開学以来、時代がどんなに変わっても、ずっと変わらない香大生の姿であり、香川大学の誇るべき学風です。

跳んだときに見える景色は、跳ぶ人にしか分からない。だから、自分を信じて跳ぶ。

# JUMP!

地元 香川大学から、  
世界の大舞台へ。  
TOKYO2020に向けて跳ぶ。

香川大学で、未来を支える  
学びを得たい

寛 お二人の、棒高跳びの現状を教えてください。田中さんは、全国レベルで期待されています。僕なら潰れそうですが(笑)。

田中 期待は嬉しいですが、心身のバランスを取るのが難しい事があります。練習の時間がもう少し欲しいと感じたり。  
寛 田中さんはケガをしていたそうですね。

山地 3月に左の前腿を傷めました。今は試合にも出ていますが、調子が上がりません。

寛 心身を鍛える時期だと思っ、がんばってくださいね。ところで二人は、なぜ棒高跳びをしよったのですか。

田中 部活で、間近で見ていると面白すぎて、幅跳びの記録が停滞した時に、転向しました。

山地 田中さんは、最初の大会からすごく跳んでいたんです。寛 面倒なのが来たなって思うよね(笑)。

山地 確かに焦りました(笑)。寛 香川大学に来た理由は？  
田中 香川県は、棒高跳びの指導者にも練習場所にも恵まれて

いて学生らしい生活を送る方が、棒高跳びの記録が伸びると思うんです。10本跳ぶところを、時間がなくて7本しか跳べなくても、集中して練習の自身が濃くなり、精神的にも強くなるような気がするのですが。ちよとお説教臭いですが(笑)。

田中 いえ、よく分かります。寛 ふたりはライバルで、お互いに対してややこしい感情を持つ時もあるでしょうから、それもすぐ相手に言えばいい。スポーツは精神面の影響も大きいです。人としてやるべきことはきちんと行つて、自分の中のネガティブな感情を排除して、いかに純粋に跳べるイメージを持つかが大事な気がします。

寛 大学ならではの積極的な学びを体験中  
寛 今までで印象に残っている授業はありますか。

田中 「想像力の教室」という授業が好きです。先日は星野源の「恋」の歌詞を読み、その意味を想像して根拠づけました。

寛 僕も車で星野源を聴いています。いいですね。

田中 本当ですか。私も歌詞に

いるので、まず県内の大学を考えました。そして将来は教師になりたいので、教育学部がある香川大学がいいなと思いました。

山地 私はまだ将来の夢が定まっていなくて、経済を学ぶことで視野を広げたいと思いました。

寛 いい考えですね。  
山地 地域活性化に興味があるので、直島のプロジェクトにも参加する予定です。他にも、留学やボランティア活動など、大学でしかできない経験を積んで、学んだことを、陸上にも、その他でも役立てたいです。

学生としての充実感が  
心の強さをしる

寛 第一線のアスリートは、授業中も棒高跳びのことを考えたりするのが、気になります。

山地 今、簿記なども学んでいて、授業の理解に必死です。  
田中 授業中は授業のことを考えています……多分(笑)。

寛 違う時もあるのかな(笑)。お二人とも自宅通学ですが、家の手伝はしていますか。

山地 料理は好きです。  
田中 お風呂洗いですね。  
寛 僕は、勉強も家の手伝いも

深みがあつて好きです。  
寛 山地さんは、どうですか。

山地 心理学が面白いです。記憶、人の性格、やる気の出し方などを学んでいて、棒高跳びにもプラスになる話ばかりです。

田中 わたしも後期に取ろうと思つています。  
寛 授業以外にも、高校とは違つ

ことが多いですよ。  
山地 施設が充実していて、勉強しやすい環境が整つています。特に図書館はすごくキレイ。

寛 アスリートとしての、今後の目標を教えてください。  
田中 一番近い目標は、今年日本記録を跳ぶことです。今自己ベストが4m15cmなので、25cm伸ばさないとけません。

山地 大学での陸上生活で自己ベストの4m02cmを更新して、全国一番になりたいです。  
寛 オリンピックは……

山地 とりあえずは、決勝戦のチケットが当たったので(笑)  
田中 それを目指しているの

で、そのためにも今年中に4m40cmを跳びたいです。  
寛 がんばってください。よい報告を待っています。

SPECIAL TALK  
特別対談

りなれな×寛学長

山地 里奈さん(経済学部1年)

田中 伶奈さん(教育学部1年)

**香** 川大学と芝浦工業大学の対流促進事業(うどん県住みます学生プロジェクト)は、平成30年度内閣府「地方と東京圏の大学生対流促進事業」採択を受け、開始されました。

芝浦工業大学は、4学部2研究科を有する工科系単科大学で、SGU事業(グローバル化牽引型)に採択されました。SGU事業では、海外の学生や企業と一緒に問題解決型のワークショップを展開するPBL型教育プログラム「グローバルPBL」や、海外企業での就労体験を通じてグローバルに活躍する人材育成を目指すインターンシップ型プログラム「国際インターンシップ」などグローバル教育プログラムを実施しています。一方香川大学は、ローカル教育プログラムと

して「瀬戸内地域活性化プロジェクト」「地域インターンシップ」などのローカル教育プログラムを実施しています。

対流促進事業は、香川大学のローカル教育プログラムを芝浦工業大学に提供し、芝浦工業大学が整備したグローバル教育プログラムを香川大学に提供することによる、「グローバルを理解したローカル人材」、「ローカルを理解したグローバル人材」の育成を目的としています。

今年3月には、グローバルPBLを受けに香大生が芝浦工業大学へと出向きました。学びのテーマは「東京オリンピック」。施設、交通、物流などが整備・新設されている東京でフィールドワークを行い、「都市の課題解決としてのオリンピック活用」という視点で講

義も受けました。「テレビの中の出来事だったオリンピックが身近になりました」と言うのは、経済学部3年・山崎若菜さん。両校混成チームで「東京が持つ課題の解決」のための提案も行い、農学部3年・宮垣綾奈さんは「異なる学問を専攻する他大学生と、意見を出し合うことが面白かった」と語ります。

一方創造工学部2年・岡本大輝さんが参加したのは、タイのアサンブション大学も加えた3大学の学生が、デジタルアートを共同制作するプログラムです。「研究に誇りと情熱を持つ他大学生に刺激を受けました」と言う岡本さんは、高松市の塩江温泉鉄道のガソリンカーを復活させるプロジェクトにも携わっており、この経験で得た創造の熱が香川での活動にも勢いを与えそうです。

## 香川大学×芝浦工業大学 対流促進事業

### 東京での体験が、地元への視線を変える

**03** 山崎 若菜さん(経済学部3年)  
宮垣 綾奈さん(農学部3年)  
岡本 大輝さん(創造工学部2年)

# JUMP!

**02** 川嶋 なつみさん  
(大学院 工学研究科 知能機械システム工学専攻 博士後期課程2年)

### ノーベル賞受賞者や世界の若手研究者からHOPEミーティングで学んだこと

ノーベル賞受賞者と全世界の若手研究者が集う1年に1度のHOPEミーティング。四国から初めて参加者に選ばれた川嶋なつみさんは「世の中を科学の力でより良いものに変えたいという研究者たちが熱い思いを語り合い、刺激を与えあう場だった」と振り返ります。「博士課程での研究は苦しい時期も多く、若手研究者と会う機会もあまりありません。ここでは同世代の研究者に出会い、闘っているのは1人ではないと励まされました」。それはノーベル賞受賞者も若い頃に経験した道。「研究は熱意があればできる。最後まで自分の夢を貫いた人がノーベル賞を受賞するのだと思いました」と川嶋さん。「受賞者が研究を心の底から楽しんでいたのも印象的でし

た。楽しくないと思ったら、それは自分のしたいことをしていないのだと。『自分の研究している分野が美しいものであると思えるか、自分の感性に問いかけてみなさい』。研究者としてあるべき姿を示されました。実は、ノーベル賞を受賞した研究者たちは、若い頃に一度どこかで出会っているというデータがあるのだとか。出会いは生涯の交流へと続きます。「そんな出会いを作る場に私が参加できたのは、大学が後押ししてくれたから」と川嶋さんは話します。病気の早期発見のために家庭で簡単に使える機械を作りたいと思っていた川嶋さんは、それが医学か薬学か工学なのかは漠然としながらも香川大学工学部に入学。「入ってみると、ある程度自分のやりたいこ

とを決めてどこかに飛び込んでしまえば、それを分かってくれる先生に出会えるものなのだと思います。いまは光センサーを使い、工学と医学の両分野でヘルスケア工学の研究をしています。「香川大学では道がどんどん開けていく。周りの先生や職員の方々が心から応援し助けてくれるという学生支援の環境が整っているからだと思います。今回の参加もそのひとつだと話してくれました。「世界各国の研究者とお互いの夢についても話しました。すべてが研究に裏打ちされた実現可能な夢。地に足のついた議論ができるよさがありました」。川嶋さんの未来を、HOPEミーティングは大きく変え始めているようです。



**高**松の方には「どーけん」の名前で  
おなじみかもしれません。児童文化研究会は子どもたちと触れ合うサークル。大きく4つの活動を行っています。毎月主に香川大学の体育館で行うレクリエーション「わくっこ」。夏に高松市教育委員会と行う「わくわくサマーキャンプ」。秋は大学祭で「わくわくこどもまつり」。さらに子ども会や学校の要請を受けて、キャンプやキャンプファイヤー、クリスマス会やお別れ会でのアトラクションも企画します。「地域の方のおかげで活動させてもらっています」と話すのは、教育学部3年生の木口凌輔さん。部員79人という大所帯のまとめ役です。部員は、キャンプなどレクリ

エーションを担当する「地域」、工作担当の「クラフト」、人形劇を行う「文化」の3つの分科会に所属し、週2回の練習に励みます。「人形劇は脚本を自分たちで作る、時には音楽も作曲。照明もすれば、ステージでは役者になります」という木口さんの説明から受ける印象は、どーけん=才能溢れるエンターテイナー集団。楽しそうな雰囲気に惹かれて入部してくる人も多く、木口さんもそのひとりでした。会長となった今は、みんなが活動を楽しんでいる場を作るのが自分の役割だと話します。部員はほぼ教育学部生ですが、法学部の学生もおり、「違う学部の人が入ってくると発想が新しくなると嬉しそう。取材時にはサマーキャンプの企画も始まっ

ていました。毎年人気なのは肝だめし。「屋島の山道で行うので怖いですよ!やっている僕たちも怖いですが…。キャンプでは人形劇で飯ごう炊さんの説明をしたり、最後のお別れの前に劇をしてみんなの気持ちをひとつにしたり。子どもたちの反応がとて面白いですよ」と今からわくわくしているようです。「心がけているのは、行事をひとつひとつ丁寧にやっていくこと。今年なにか不具合があって来年からはできなくなってしまう、というのはダメなんです。今あることに全力で取り組む。それを大事にしています」。そんな思いが引き継がれているからこそ、「どーけん」は長いあいだ地域のお子さんや大人たちに愛され続けているのでしょう。

ある時はキャンプのお兄さんお姉さん、  
ある時は人形劇団「かざぐるま」。  
またある時は一緒に工作を作り、  
子どもたちの楽しい思い出を演出する。

05 児童文化研究会

# JUMP!

04 剣道部

## 体も心も凜とした 剣豪がしのぎを削る

**生**涯スポーツとしても、強くしなやかな心を養うためにも、根強い支持のある剣道。平成24年からは、「剣道」「柔道」「相撲」の3種目からの選択制で、「武道」として中学体育の必修領域となりました。香川大学の剣道部は、教育学部の山神真一教授が師範・総監督。最高段位・八段を有する達人で、日本武道学会の理事も務める山神教授の指揮の下、男子26人、女子13人が、日々まさにしのぎを削っています。現在の部員は全員三段以上と、高校時代は地域でその名を轟かせた強者ぞろい。昨年度、男子団体は、「全国教育系大学学生大会」で初優勝を果たし、「中

四国学生剣道優勝大会」で準優勝して全国大会にも出場。女子団体も3年ぶりに全国大会に出場しました。また個人では、岡山の強豪・西大寺高校出身の嶋村悠さん・健さん兄弟が「中四国学生選手権」で準優勝と3位となって話題をさらっています。結果を出す部活動だけに日々の練習も真剣です。毎週月・木曜は朝7時、火・金曜は18時30分、土曜は10時から、基本稽古と地稽古を合わせ1~2時間。2カ月に1度は幸町キャンパス近くの旅館で合宿しながら朝練・夕練を行い、春には関西、夏は九州へも遠征します。今は「中四国学生剣道優勝大会」で男女ともに優勝することを目標に、チームとして

の力を高めています。一方で、競技として個人が長期的に付き合うためには、練習方法、モチベーションの維持など、大学時代に剣道との取り組み方を創造する必要があります。与えられた練習をこなす高校までとは違い、自ら課題を見つけて、克服のために何をすればいいのかも自分で決めていきます。そのためにも「高い志を持った人たちと歩めることは、とても恵まれています」と主将の奥田真生さん。剣道に向かう心は真摯ですが、実は部員のキャラが濃く、いつでも「何か笑える話をしないと行かない」人揃いという伝統も。面白い仲間たちと技を磨きながら、友情も育んでいます。



# 瀬戸内国際芸術祭

## ×

# 香川大学

## 小豆島

# 夢プロジェクトチーム

300年以上伝わる農村歌舞伎舞台で演劇を上演。

夏会期(8月24・25日)トラと呼ばれたサル(中山農村歌舞伎舞台)

秋会期(9月28・29日)蛙の池の今昔物語(肥土山農村歌舞伎舞台)



このワークショップでは参加者の経験は不問。黒板には「キャラ変自由」など、演劇の楽しさを伝える言葉が書かれていました。「小豆島の未来を考える演劇、みんなで作り上げていくのが面白い」という、柴田講師からのメッセージ。



初夏の小豆島、「香川大学×小豆島夢プロジェクト」のオーディション会場を訪ねました。最初はぎこちなかった参加者も、3時間経つ頃にはセリフを自分の言葉のように話し、登場人物を生きていました。最後の感想では「架空の人物を演じていたのに、本当にその人がいるようで、その人の悲しみまで伝わってきた」「自分がこんなことまできるんだというのに驚いた」、「気持ちよかったですねえ!」と快心の笑顔も飛び出し、参加者自身が変わっていく姿は感動的でした。

瀬戸内国際芸術祭2019では、創造工学部の柴田悠基研究室が演出家の豊永純子氏を迎え、小豆島の中で小豆島を考える演劇を制作しています。制作統括の柴田講師と、脚本・演出を担当する豊永氏に、お話を伺いました。

「オーディションはどうでしたか?」  
 豊永 純粹に楽しい時間を過ごしました。皆さんすでにチーム感があってのが不思議です。この方たちと一緒に舞台を作っていくのだと楽しになりました。

柴田 2日間で22名の応募がありました。小豆島や高松の方で、ほとんどが演技未経験者。皆さんそれぞれ目標や達成したい思いがあり、だからこの

KAGAWA UNIVERSITY × SHODOSHIMA DREAM PROJECT

場でも作品を創るといふ雰囲気が出ていたのだと思います。

豊永 「こんなことを言ってもいいのかな」とためらわずに、ここでは素直に思ったことを口に出してくれました。自分の気持ちを相手に伝えながら、演劇に関わっていただけたら。嬉しいオーディションでした。

「どんな作品になるのでしょうか?」  
 豊永 夏会期では小豆島の高校3年生が主人公です。自分の人生を考える高3、でも学校や家庭は問題だらけ。島の中で生きるのか、外に出るのか。主人公が島で今まで出会わずにいた人に出会い、自分や人、育った環境を一度深く考え、自分の将来を決めていく姿を描きます。

柴田 5月から小豆島中央高校の廊下の一角に「小豆島プロジェクト研究所 島のへそ」、通称「へそ研」を開き、月々金曜日は豊永さんが1日中、高校生のリアルを感じながら脚本を書いているんですよ。



小豆島池田町中山地区、中山農村歌舞伎舞台の目の前に広がる千枚田。この地区には約800枚の棚田があると言われ、いまに残る日本の原風景として、四季折々の美しい表情を見せます。島の自然を感じながら鑑賞できるのも今回の舞台の魅力です。

# 太田 泰友・岡 薫

## 香川大学

### 国際希少糖研究教育機構

瀬戸内国際芸術祭の夏・秋の両会期、希少糖が芸術作品として展示されます。

タイトルは「Izumoring-cosmos of rare sugar」。

ブックアーティストの太田泰友さんと、岡薫さんの共同制作。

香川大学国際希少糖研究教育機構の何森健研究顧問が希少糖の監修を行います。



柴田 悠基 (右)

創造工学部講師。現代美術作家。「情報社会が社会に与える影響」をテーマに幅広い手法で芸術表現を行う。主な展覧会に「IN PROGRESS」Zendai Contemporary Art Space (上海ヒマヤ美術館 別館) 中国上海市 (2015) など。専門分野は現代美術、メディアアート

豊永 純子 (左)

演劇の作・演出家。劇団じゅんこちゃん主宰。2016年より東京藝術大学で非常勤講師を務める。2017年は青少年支援員として勤務する傍ら、日本遺産PR事業「ニッポンたからものプロジェクト」の構成・進行台本を担当。現在は香川大学 地域連携コーディネータとして小豆島に住みながら『演劇でみる小豆島のカタチ』の作・演出を行う。

豊永 高校生はとても協力的で、写真部は演劇ができる過程を撮影してくれたり、オリジナルで詞と曲を作ってくれる人もいたり。悩んでいたら、島の言葉でセリフを読んでもくれたり。脚本を書いたら「明日みんなに見てもらおう」「どうしよう、つまんなかったら」なんてドキドキしながら学校に行きます。こんなふうにする戯曲ってないです。

―秋会期はどんな作品に？

豊永 肥土山で歌舞伎が始まった300年前を描きます。庄屋の太田典徳氏が私財をなげうち様々な困難をのりこえて蛙子池を作ったのが始まりなのですが、島の高校生でも知らない人が多いですね。300年前の人がどんなふうに来た小豆島を思い描いていたのか、歴史を遡り人の思いを知ること、自分たちは何を残せるのかを考えたいと思います。

柴田 アートじゃないとできないことがあると感じています。芸術は自分自身を見つめる装置。「香川や瀬戸内国際芸術祭に対してこんな思いを持って

#### KAGAWA UNIVERSITY X SHODOSHIMA DREAM PROJECT

いて、こうしたい」と自分や社会の問題を発見することができ。それは結果ではなく「過程」、演劇ならではの力だと思っています。

豊永 演劇では、出演者はみんな自分ではない役を与えられます。「どうしてこのタイミングでこのセリフを言ったのだろう」と深く考え他者への想像力が豊かになるんです。稽古ではそんな過程を通して、心をパカーンと開いていけると思っています。

―どんなところを見てほしいですか？

柴田 メンバーが一生懸命、未来や自分のことを考えて作品を作っていくので、それを見てほしい。見ることに「画竜点睛」。見るあなたも作品の一部だとお伝えしたいです。

豊永 いろんな楽しみ方ができる作品です。小豆島のことを知りたい人、農村歌舞伎の舞台を見てみたい人、瀬戸内国際芸術祭ファンも、知り合いが出演するという方も、みなさんに響くものがあります。見た後は、ぜひ感想を伝えてください。伝えられた人がさらに何か行動を起こす、いろんな作用が広がっていく作品だと思います。

#### 研究、産業、文化、

そしていま

#### 芸術としての希少糖へ

瀬戸内国際芸術祭でアートとサイエンスが「希少糖」を中心に融合します。希少糖研究を進めてきた何森研究顧問は「2018年出版の広辞苑に『希少糖』や希少糖のひとつ『ブシコース』が掲載された時、希少糖が『ことば』という文化として認識されたことを大変嬉しく思いました。今回芸術作品に取り上げられることで、希少糖をアートとして表現できることは非常に楽しみです」。会場には希少糖を模した白い山が。その中には本が埋まっており、個々の希少糖を表します。研究が進むDブシコースの本は詳細に書かれています。が、今後の研究が待たれる希少糖は白紙の本で表現。すべての配置は何森研究顧問が発見した「イズモリング」に基づきます。

「希少糖研究を通じて、サイエンスは産業化による社会貢献だけでなく、人の生きがいを作り出せることや、文化との関係もあることを教えられました。希少糖が多様な側面を持っていることを大切にしたいと思っています。ぜひみなさんも会場に足を運んで、楽しんでください」と話す何森研究顧問です。

#### SCHEDULE

- 夏会期 2019年7月19日～8月25日
  - 秋会期 2019年9月28日～11月4日
- 協力：Opsodis Ltd. 場所／北浜alley (高松市)



<https://setouchi-artfest.jp/artworks-artists/artists/352.html>

#### 何森 健

香川大学国際希少糖研究教育機構研究顧問  
岡山県玉野市出身。香川大学農学部で糖の研究に従事し、世界で初めて希少糖「D-ブシコース」の生産に成功。ブシコースはこの4月、米国食品医薬品局が、肥満につながる「糖類」から除外することを決定し、さらなる需要の拡大が見込まれている。



#### SCHEDULE

- 夏会期「トラと呼ばれたサル」  
2019年8月24日(土)、25日(日) 17:00～18:00  
中山農村歌舞伎舞台

小豆島で生まれ育った若者は、自分の未来をどのように考え、選択するのか。島のリアルと高校生の展望が詰まった現代劇。

- 秋会期「蛙の池の今昔物語」  
2019年9月28日(土)、29日(日) 17:30～18:45  
肥土山農村歌舞伎舞台

深刻な水不足を解消するため立ち上がった300年前の英雄が、現代にタイムスリップ?!怪事件の裏に隠されたメッセージとは..。

<https://setouchi-artfest.jp/artworks-artists/artists/267.html>



オーディションはワークショップ形式で行われました。劇のワンシーンを演じる参加者たち。登場人物の心理を演出家が説明します。それを参加者それぞれが自分の中で咀嚼し、演技がどんどん変わっていきます。



## 発想のきっかけは「夏眠」 新たな学説を検証する。

西山教授の発想はどこから来るのでしょうか。ヒントは、人間にはない機能を持つ生物の観察にありました。「皮膚に水分をためる生物にはカタツムリや肺魚がいます。彼らは“夏眠”といって、水分を保つために一時的に身体活動を停止させて体を守る機能を持つのですが、人間やマウスでも同じことが起きているのではと考えたのです」。二日酔いでしんどいから寝るという現象も、もしかしたら、皮膚の水分濃度等が変わったことによる危機的状況から体を守るために、一時的に夏眠しているのでは…。そう聞くと生活者の立場からは納得する部分もありますが、西山教授がこの説を発表すると学会では賛否の渦が巻き起こったのだそうです。しかし教授には長年の研究実績と、仮説・検証を積み重ねてきた実験データがあります。「自

分が疑問に思ったことは自分でデータを集め、知り得た事実を公表する。これが私達のスタンスです」。「研究は楽しい」と西山教授。「自分が本当に知りたいことを追求できるのがアカデミアの世界です。国内外の研究者とアイデアを出し合い、時に競い合い、信頼関係の中でお互いに高め合っていけるのは、研究者ならではの醍醐味」。大学入学時は普通に医師になるつもりだった西山教授はその面白さに魅了され、卒業後は研究の道に進みました。西山教授の研究に魅せられて、自主的に研究に参加する医学部の学生たちも増えています。JAXAとの研究は始まったばかり。2年後に成果を発表した後もさらに研究は続きます。これは人類のからだの調節能力に対する見方を変える新たな旅となることでしょう。



医学部

### 西山 成 教授

香川大学医学部・医学系研究科  
専門:高血圧、腎臓、薬理学、臨床薬理学



## 常識を疑い、 真実に近づく。 医学の進化につながる 香川大学とJAXAの 共同研究、スタート

宇宙飛行士の皮膚がむくむ  
よく知られている現象の  
いまだに解明されていないメカニズムに迫る。

医学部の西山成教授はJAXA(宇宙航空研究開発機構)と共同し、皮膚のむくみについての研究をはじめます。「無重力という生命にとっての極限状態での皮膚の水分やナトリウムイオンを測定し、将来はこれらの変化によりどのような病気が生じているのか、さらにどのようにコントロールすればそれを防げるのかを明らかにするのが、今回の研究の目的です」。まずは国際宇宙ステーションで育てられたマウスの組織から、無重力が皮膚に与える影響を調べます。「私たちは普段の生活の中で、“お酒を飲んだ後はむくむ”とか“体がむくむとしんどい”などを感じていますね。むくみは、皮膚の中の水分や、塩分のもとになるナトリウムイオンが増減して生じ、これが体全体の調節を

行っているのではないかと考えているのです」。むくみが起きている部位の水分やナトリウムイオン濃度は、他の場所とは異なっているのではないかと考えています。「皮膚にナトリウムイオンがたまると血圧が上がる。その結果、肌の老化が起きたり、交感神経が活性化されることで心臓病や腎臓病が起きているのではないかと考えています」。医学の常識を塗り替えるかもしれない西山教授の研究は、今回、JAXAに採択された6件の研究の一つに選ばれました。



## 「広い視野、深い洞察、高い理想を持って」 真のリーダーシップを教える。

地域の健康づくりだけではあ  
りません。実は山神教授は  
剣道八段。剣道の指導法について  
も研究を重ねています。「平成24年  
から中学校では武道が必修化され  
ており、学校現場でどのように指導  
すればいいのか、中高の先生方を対  
象に指導法を教えています。」大学  
でも剣道部の監督として、これまで  
300人近い学生を教えてきました。  
現在は師範・総監督の立場です。  
学生にはいつも「広い視野、深い洞  
察、高い理想を持って」と指導するの  
だといいます。「広い視野を持って  
いる人は社会に出て伸びる人。だから  
学生にはいろんな経験をしてほしい  
と思っています。深い洞察は“ズレ”を  
意識することにつながります。自分と  
相手のズレがあるとき、そのズレをど  
う解消するのが大切です。そして  
高い理想がないと、人としての魅力

がないぞ、と」。  
講義で、ゼミで、剣道部の活動で。  
幅広く学生と接する山神教授が育  
てたいのは、本当の意味でのリー  
ダーシップ。リーダーが先頭に立ち、  
自分だけの力でメンバーを引っ張っ  
ていくのではなく、組織全体で「みん  
なでこれをやりませんか」と促進する  
役割。言うならばファシリテーターが  
求められていると話します。「メン  
バーをいい方向に持って行くための  
力を、大胆に細心に、発揮してほし  
いと思っているのです」。  
「健康づくりもひとりで行っているの  
ではありません。これからも自分の役  
割に応えられるように継続して続け  
ていきます」。役割は与えられるもの  
だから、その使命を全うしたいと話  
します。健康づくり、そして人づくり。山  
神教授のやりがい、尽きることを  
知りません。



教育学部

山神 眞一 教授

香川大学学長特別補佐 教育学部 大学院教育学研究科  
専門:スポーツバイオメカニクス、剣道



## 長年にわたって 地域の健康づくりに貢献 公益財団法人健康・ 体力づくり事業団より 「厚生労働大臣感謝状」を受賞

### 「健やかかがわ21県民会議」の会長として 地域の健康づくりを促進。

今年3月、公益財団法人健  
康・体力づくり事業団創立  
40周年を記念して、教育学部の山  
神眞一教授が「厚生労働大臣感謝  
状」を授与されました。受賞につ  
いて山神教授は「多くの方と一緒に取  
組んでいることなので、みんなで受賞  
したと思っています。受賞が全員の  
励みとなり、さらなる取り組みへのス  
テップアップになれば」と話します。  
健康づくりの大切さを、自身の研究  
データをもとに、ユーモアを交えて分  
かりやすく説明する山神先生の講義  
は、地域の勉強会でも大人気。知識  
普及のために本の出版にも取り組  
んでいます。  
そんな教授の研究人生のスタート  
は、スポーツバイオメカニクスという運  
動解析に特化したもの。「運動やス  
ポーツの動きを映像で分析し、生理

学的・解剖学的視点を踏まえた運動  
技術について研究していました。体  
の動きやスポーツ技術を支えるのは  
脳だと考え、医学で博士号を取得す  
る中で、医学と健康づくりの視点か  
らスポーツを考えるようになったので  
す。その知見を活かし、医学と運動  
のマッチング、さらに指導法の開発を  
通して、幼児からお年寄りまで幅広  
い世代の健康づくりに深く関わるよ  
うになりました。「香川の健康問題の  
ひとつに“歩かない”ことがあります。  
道路の舗装率が高く、公共交通機  
関は不便。生活習慣の中での身体  
活動量がどんどん減っています」。そ  
れに対策を講じようと山神教授は、  
健やかかがわ21で歩こう運動を提  
唱したり、香川県と一緒に県民の健  
康づくりを促す「マイチャレかがわ」と  
いう取り組みを始めています。

地元貢献したい、  
恩返ししたいという思いでアナウンサーに。  
いまも、「郷土愛がすごく強い」と  
よく言われます。

OHK（岡山放送）のニュース番組「OHK Live News 614」や、情報番組「なんしょん？」の木・金曜日で、地域のニュースや情報を伝える森夏美さん。2018年に法学部を卒業し、現在入社2年目です。

法学部では行政を学ぶゼミに所属。「法律の中でも身近な問題が多く、例えば商店街がテーマの時には、どこから公道でどこまで店の看板を出せるかなど、法律の知識と実際の生活が直結して面白かった」と話します。「実務家の先生に学ぶ講義も興味深く、法律の専門知識と生活がどう結びつくのか、毎回「へえーっ」と驚くことばかり。その時にニュースになっていることも法律的な見地を取り上げて説明してくれたので楽しかったですし、それがいま役に立っていると思います」。

在学時代はミスキャンパスでグランプリにも選ばれました。「友達やいろんな方に応援してもらったのですが、グランプリ



ありです。勉強とプライベートを両立しやすい香川大学で、やりたいことをブレずにしっかりと学んでください。大学時代に会った仲間とのつながりは、社会人になってからも大切にしたいです。悩んだ時や迷った時にきくと仲間達が手を差し伸べてくれます。」と、エールを送ってくれました。

りという形で皆さんに喜んでもらえる経験ができたことは、自分にとって大きな出来事でした」。こういった経験を積み重ね、森さんは、アナウンサーという小学生からの夢を実現するために動き出します。地元で恩返ししたい、地元を発信したいという思いで、岡山と香川の放送局に絞って就職活動を始めました。

アナウンサーになったいま森さんは、地元出身だからこそ深く伝えられることがあると感じるのだそうです。「香川大学のニュースを伝える時も後輩たちが頑

張っているんだなと嬉しくなります。瀬戸内国際芸術祭をテーマとした新年の県知事対談の司会をさせていただいた際に香川大学が作品を出すことを知りました。母校が芸術祭で世界に向かって発信することをすごいと思いました。同時に、自分も香川の良さを発信するという夢を、いま実現しているのだなと実感しました」と話してくれました。

「私はいつも、若い方に香川・岡山でずっと暮らしたい、大学を卒業してもこの地で就職したいと思ってもらいたいという気持ちで仕事をしています」という森さん。「私がテレビに出ることで、地元でも輝ける、夢は叶うと思ってもらえるよう、頑張りたいです」。

森さんに、本誌を読む若い方たちにメッセージをお願いしました。「大学4年間は長いようで、あつという間に過ぎてしまいます。自分が本当にしたいことを見つけてほしい。そのための時間と環境は十分に



ANNOUNCER

KAGAWA UNIVERSITY'S ALUMNI

地域を見つめ、いまを伝える  
アナウンサーの原点は  
香川でした。

OHKアナウンサー／森 夏美さん（法学部出身 2018年卒）

# Next Innovation.

香川大学発 研究シーズ活用レポート

Kagawa Univ. Case Study No.  
06  
KAGAWA UNIVERSITY



オリーブの木の下で、朝の気持ちいい光を浴びながらヨガ体験。

## 香大生が、地域の観光資源を発掘し企画する旅行ツアーが始まりました!

「チームSIGNAL」「まるかんガールズ」

ごく最近まで、パッケージ旅行などの旅行商品は、都市部の旅行会社が企画販売する「発地型」がほとんどでした。一方急増しているのが、旅行者を受け入れる地域が主導で作る「着地型」です。観光地側がディープな見識に基づいて、人、モノ、自然、体験などの資源をアレンジするため、オリジナリティに溢れているのが特徴。地域の住民、産業や商業を巻き込



み、地域活性化につながるとも言われます。そんな中、香川大学の経済学部を中心とした学生が結成した「チームSIGNAL」と「まるかんガールズ」が企画・開発した、JRを利用する着地型旅行ツアーが、この春催行され、参加者から大好評を得ました。学生がツアー旅行を創造する「地域観光チャレンジ」という名のプロジェクトは、2017年に全国で初めて、四国の4国立大学とJR四国が、地域活性化を目的に観光振興や人材育成で連携する協定を締結したのと同時に始まりました。「ローカル地域で自走可能な観光による活性化を創造する」事を目的にしており、①ローカル観光のビジネススキーム構築②ローカル観光のニーズに応える人材育成を

行い、将来的には③ローカル観光のブランディング・エリアリングを目指します。2018年9月に、4大学各々が2プランずつ提案した旅行企画の成果発表と審査会があり、1プランずつに与えられる金賞と銀賞を、香川大学の2チームが受賞。それが、今年の春にツアーとして実施されたのです。金賞を受賞したチームSIGNALの「地域のお宝フルコース列車～東讃の「食」を堪能する汽車旅～」は、東讃の多彩な魅力に触れられ



地域連携・生涯学習センター  
長尾 敦史 特命講師  
専門分野 地域振興・コミュニティデザイン

るツアーです。体験やまち歩きなども交えながら、貸し切り列車の中で、郷土料理を食べ、乗り込んだ地元の方が地域の歴史や文化を語り、列車を「おもてなしの場」にしました。銀賞を受賞したまるかんガールズの「香川でココロとカラダすっきり「美」力アップツアー」は、高松市国分寺町のオリーブ農園が舞台。オリーブの健康・美容効果のレクチャー、オリーブ畑でのヨガ教室、薬膳教室、美しくするためのピュッフェランチという内容です。こちらは、ツアー旅行に馴染みの薄い若い女性をターゲットとし、「インスタ映え」を意識したどこを切り取っても絵になるコンテンツが女子学生チームらしいとJR四国から評価されました。また香川特産のオリーブが、小豆島だけでなく他の地域でも生産されている事実を伝えられた事にも意味があります。どちらの企画も、先行事例と市場の調査、マーケティングの学習を経て、地域資源を発掘するフィールドワーク、ツアーの立案、地域の方々への協力依頼など、全てを学生が行いました。実施後には、商品と運営の検証を行い、さらに魅力あるツアーの創造に繋がります。来春催行に向けた旅行商品の開発も既に始まっています。3年生を中心とした2期生は、現在、企画立案、地域との関係づくりに奔走中。若者の卒業旅行や、外国人向け商品など、JRの新規顧客層を開拓する商品が期待されています。さらに3期目の再来年には四国4大学が連携した旅行商品の開発の予定も。観光客に四国全体を周遊してもらえるツアーの誕生も間近です。地域を盛り上げるために香大生がどんな列車旅を生み出すか。その若者らしいユニークな発想が頼りにされています。



《研究シーズ活用のご相談は》  
香川大学 産学連携・知的財産センター

〒760-8521 香川県高松市幸町1-1  
TEL.087-832-1672(代) FAX.087-832-1673

本学研究者の研究成果は、HPより確認できます。  
<https://www.kagawa-u.ac.jp/ccip/>



## 新しい観光ビジネスを生み出す「地域観光チャレンジ」に期待しています。

JR四国 総合企画本部地域連携室長 大熊 伸二様



「地域観光チャレンジ」は、平成29年9月に、四国の4国立大学とJR四国が、観光による地域活性化とそれを担う人材育成を目指して連携を開始した取り組みです。4大学で18チーム約80人の学生が取り組んでくれましたが、その中でも香川大学の「まるかんガールズ」のメンバーは、実際に地域に足を運び、地域の方々話し合いや試食会などを重ね、女性の「美」力アップをテーマにした新しい地域の観光プログラムを作成してくれました。地域の事業者の皆様も駆付けてくださった最終審査会では、見事、銀賞を受賞しました。20～80代までの幅広い世代の方がご参加くださり、お客様の興味関心は、オリーブ、ヨガ、薬膳と様々でしたが、ここにしかない地域の魅力を体験していただきました。地域の事業者様も、初めての試みでしたが、今後も、継続していきたいという意向を持ってくださっております。現在は、第2期生が活動中で、そろそろ企画をまとめる時期を迎えます。先輩たちの経験を活かして、「地域観光チャレンジ」が、より充実した活動になり、将来的には、地域の観光ビジネスを生み出すきっかけになることを願っています。



イタリアン薬膳料理の説明を受ける参加者のみなさん。

# 01

## 瀬戸内国際芸術祭2019 香川大学×小豆島 夢プロジェクト「演劇でみる小豆島のカタチ」 チケット発売中!

香川大学初となる、瀬戸内国際芸術祭2019参加作品「トラと呼ばれたサル」「蛙の池の今昔物語」。「農村歌舞伎舞台で未来の小豆島を考える」をテーマに、過去・現在の小豆島をひもとく、未来の小豆島を演劇を通して考察するプロジェクトです。中山と肥土山の農村歌舞伎舞台にて演劇を上演することも大きな話題になり、制作風景が香川・岡山のニュースでも取り上げられました。現在、オンラインにて公演のチケットが発売中です。詳しくは下記リンク(瀬戸内国際芸術祭ホームページ)よりご確認ください。

【夏公演】「トラと呼ばれたサル」  
日時:2019年8月24日(土)、25日(日)17:00~18:00  
場所:小豆島 中山農村歌舞伎舞台

【秋公演】「蛙の池の今昔物語」  
日時:2019年9月28日(土)、29日(日)17:30~18:45  
場所:小豆島 肥土山農村歌舞伎舞台

作・演出 豊永 純子 / 制作 柴田 悠基

【料金】  
前売り¥1,500 / 当日¥2,000 / パスポート割引¥1,800  
小中高¥1,000(前売り・当日とも)

■瀬戸内国際芸術祭ホームページ

<https://setouchi-artfest.jp/event/detail346.html>



## 02

### イングリッシュ・カフェから グローバル・カフェへ!

2016年の設立以来、学生と留学生の交流の場だったイングリッシュ・カフェ。今年より名前を「グローバル・カフェ」と変更し、学生や教職員だけでなく、地域の皆様にも多言語学習・異文化交流の機会を提供しています。本年度からは英語の学習を中心に、中国語・フランス語・スペイン語・韓国語等の言語クラスを開講し、異文化交流活動を行う施設として新たにスタートを切りました。

今後はネイティブスピーカー等による会話指導や、留学生と一緒に受けられる授業、多彩なイベントの開催等を通じて、語学力を高め、異文化理解を深めるプログラムを提供します。学内だけでなく、地域の高校や諸団体などにも開かれ、多くの方々に気軽に訪ねていただけるグローバルなコミュニティ作りを目指してまいります。

■グローバル・カフェの授業、イベント、最新情報は公式FacebookやTwitterでチェック!



## 03

### 本学教員が平成31年度科学技術分野の 文部科学大臣表彰を受賞

2019年4月17日、寺尾徹教授(教育学部、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構併任)、村山聡教授(教育学部、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構併任)、寺林優教授(創造工学部、香川大学博物館長)、末永慶寛教授(創造工学部、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構併任)が文部科学省において、学校法人日本大学理工学部の畔柳昭雄特任教授とともに、科学技術賞を受賞しました。

文部科学大臣表彰は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃える賞です。今回は「持続可能社会への地域の知恵に学ぶ水環境と減災の理解増進」として、常に水を大切にしてきた讃岐地方の歴史と活動、瀬戸内海をSATOUMIとして育てる先人の歴史に根差した活動、瀬戸内地方のレジリエントで持続可能な海洋空間の活用、南海トラフ巨大地震や地球温暖化に伴う災害特性研究など、瀬戸内地域の水環境保全の知恵を持続可能社会と減災に活かす科学技術のシーズを育て、講演、エクスカーション、シンポジウム、学会、論文等により、全国および世界へ発信してきた活動が評価されました。



## 04

### 人事担当者からみた大学イメージランキング 香川大学は中四国で2位にランクイン!

全国の上場企業と有力非上場企業の人事担当者を対象に実施された「人事が見る大学イメージランキング」(日本経済新聞社・日経HR調査)で、香川大学は中四国2位の高評価となりました。全国ランキングでは31位をマークしています。また「採用を増やしたい大学」では全国3位に香川大学の取り組みが地域や企業の皆さまにご理解いただけていることや、卒業生の社会での活躍が、今回の高評価につながったものにとらえています。

企業人事担当者から見た中四国の大学イメージ調査ランキング(満点40点)

順位	全国順位	大学名	総合得点
1	5	広島	32.06
2	31	香川	30.03
3	47	鳥取	29.27
4	49	愛媛	29.23
5	50	徳島	29.22



# 香川大学は 70周年を 迎えます



## DRI教育の推進

「DRI教育」とは、新たな価値創造のための学士課程教育です。DRIとは、次の3つの言葉の頭文字です。

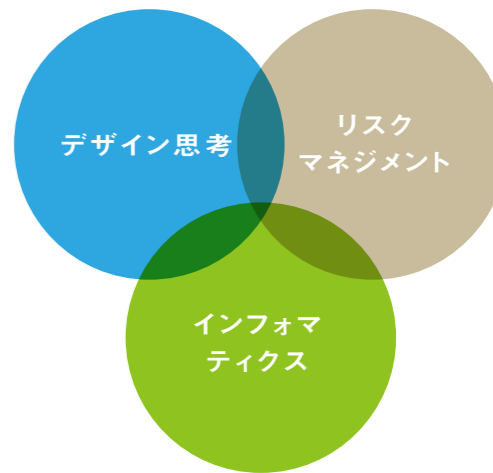
- Design thinking:イノベーションを創出する「デザイン思考」
- Risk management:レジリエンスやサイバーセキュリティに資する「リスクマネジメント」
- Informatics:専門分野を超えた「インフォマティクス」

本学は、地域社会の課題解決に資する教育・研究等の実績のもとに、地域活性化の中核的拠点としての機能強化に取り組むことをビジョンとして掲げています。地域社会において新たな価値を創造できる人材が求められており、DRIに係る教育が各大学に期待されています。香川県においても、人口減少が進行する中、地域活力を維持・向上させるイノベーションが必要とされており、上記3つの能力を統合した「DRI能力」の育成が求められています。これを、本学ではDRI教育と呼んでいます。

DRI教育を全学展開するために、大学教育基盤センター内に創造教育推進部門を新たに立ち上げるとともに、DRI教育の育成を基軸として、具体的には以下の三点の取り組みを通して、学士課程教育の充実を図ります。

- (1) DRI能力を育成するための基盤的教育
- (2) より高度な要望に応えるためのネクストプログラム(特別教育プログラム)
- (3) DRI能力を育成するためのFDプログラム

まず(1)については、全学共通科目において新たにDRI能力育成科目を開講します。また、従来の主題科目B「課題発見・課題解決型授業」を更に実質化することにより、全学的なDRI能力の育成に努めます。(2)については、学習意欲の高い学生をターゲットとして「DRIイノベーター養成プログラム(仮)」を開講し、多様な理解力やチームで考える力を養います。(1)と(2)の授業を行うためには、DRI教育を行うことができる教員を養成することに加え、全学の教職員からDRI教育に対する理解と協力を得なければなりません。そこで(3)として、DRI教育やアクティブラーニングに関するFDを全学および各学部単位で適宜開催し、教員・職員・学生が一丸となってDRI能力の育成に取り組む環境を整備したいと考えています。



## 香川大学 70周年記念事業

(予定は変更となる場合があります)

令和元年11月2日(土)(予定)

- キャンパスツアー
- 校友会設立総会
- 創立70周年記念式典
- 創立70周年記念兼校友会設立祝賀会

(詳細は香川大学HPにて掲載予定です)

## 香川大学支援基金

香川大学から感謝を込めて

■ご寄附いただいた方全員

ご了承を得て、ご芳名を大学ホームページ等に掲載し、末永く顕彰いたします。

■個人10万円以上、法人・団体 30万円以上寄附された方

感謝状と記念品の贈呈 / 学長より感謝状と記念品を贈呈いたします。銘板による顕彰 / ご芳名の銘板を学内に掲示し、末永く顕彰いたします。

■ご寄附の方法が選べます!

■クレジットカードを利用した寄附のお申し込み

ご利用いただけるクレジットカードの種類は右記のとおりです。



■振込用紙を利用した寄附のお申し込み

振込用紙を利用した寄附を希望される方は、メール(kikin@ao.kagawa-u.ac.jp)により、住所・氏名・電話番号をお知らせください。後日、払込取扱票を送付いたしますので、お近くの金融機関の窓口からお振込みください。ゆうちょ銀行・郵便局又は百十四銀行・香川銀行から振込まれる場合は振込手数料はかかりません。その他の銀行などをご利用の場合は手数料をご負担いただくこととなります。

詳しい情報はHPで! <https://www.kagawa-u.ac.jp/kikin/>

ご支援者の方は  
税制上優遇措置が  
受けられます。